

請 願 第 2 8 号	平成27年9月1日受理
付 託 委 員 会	総務常任委員会
件 名	地域創生の観点から、街路樹、街路草花の管理に関することについて
紹 介 議 員	伊 原 忠 議員
請 願 要 旨	
<p>地域創生の観点から、全国各地の自治体で、企業や他機関、住民を巻き込んで、さまざまな取り組みがなされてきています。直近の取り組み例として、市原市の事例が挙げられます。昨日の報道によれば小湊鉄道株式会社が秋に新型車両コッペル号（里山号）を運行するに際し、地域住民ボランティア団体と行政担当部局（観光振興、交通政策、広報）との連携を密接にし、市原市の地域創生の起爆剤として大いに期待されるものと認識しました。CM、TV、映画に頻繁に登場する人気路線の源は、里山風景にあると考えます。</p> <p>さて、話を本市に移しますと、市民ボランティアから発し、唯一国交省の補助金を得て毎年展開されている「つつじ祭り」があります。この行事は、次年度10周年を迎える大きなイベントとして市内外に知れ渡り、当初地域住民の一部のボランティア活動から興されたイベントの中でも、他に類を見ないほどの発展を遂げたものであると思います。そして今もってなお進化発展を続けていることは、一市民として深く敬意を表するものであります。</p> <p>市原市、本市に共通するのは、常日ごろからの景観の手入れ、整備に携わっている方たちがほとんど高齢の方たちである点です。どの地域でも共通するボランティアの高齢化と、ボランティア人口の少なさに、何らかの対策を立てなければ、八千代のすばらしい景観が失われかねません。</p> <p>そこで、「つつじ祭り」の意義について、関係ボランティア団体はもちろん、行政の担当部局（観光推進室、土木建設、広報ほか）と、有識者を擁した機関を設立した上で、地域創生の実践事例として取り上げるのはいかがでしょうか。大学、研究機関との連携も視野に入れられます。</p> <p>折しも、市教育委員会子どもサミットのテーマは、環境教育であり、教育的側面からの意義も深いものと思われまます。</p> <p>まちの花であるつつじ、そしてつつじの真っ白いベルト地帯が町並みの緑木と添うつくりとなっている、この高品質な景観を永久的に存続させていただけますよう、心から願います。</p> <p>「つつじ祭り」を一地域の祭りで終わらせるのではなく、全市挙げての地方創生事業の一つとして位置づけていただけますよう心から願います。</p>	